

## 情勢報告（令和2年9月分）

中央東農業振興センター嶺北農業改良普及所

### シェフと産地のコラボレーションで米ナス消費拡大

#### ～れいほく米ナスフェア～



フレンチに変身した米ナス

8月1～31日の1ヶ月間、高知市内のレストラン8店舗で、JA高知県れいほく園芸部米ナス部会主催の米ナスフェアが開催されました。普及所はフェアのPRを通して米ナス消費拡大を支援しました。

今年はコロナ禍での開催でしたが、各店とも万全な対策で、お客さんに安心しておいしい料理を楽しんで頂くための工夫と、シェフの趣向を凝らした料理によって、米ナスの新たな可能性が示され、新たな消費拡大のヒントにもなりました。

次年度から参加を希望している店舗もあり、シェフと産地のコラボレーションは広がりを見せています。普及所は今後とも嶺北地域のPRを支援します。

### 本山町の将来を担う若手農業者を支援します

#### ～本山町若手農業者との意見交換会～



農業委員長から本山町の農業の現状を聞く参加者

8月31日に本山町プラチナセンターで、本山町農業委員会と本山町主催の「若手農業者との意見交換会」が開催され、若手農業者4名が参加しました。

交流会では「本山町の農業の現状」について、町、農業委員会、農業公社からそれぞれの取組を説明し、普及所も支援事業、収入保険制度、経営支援等の情報提供をしました。

若手農業者からは、遊休農地の増加に伴う問題点や農地維持の取組、組織間連携の必要性等の質問がありました。今後、個々の経営の悩みなどを聞き取り、経営改善等を支援していきます。

### よりよい集出荷場になるよう再チェック ～集出荷場GAP点検～



出荷場 GAP 点検の様子

9月3日、JA高知県れいほく園芸部では、部会役員、JA、普及所職員合わせて6人が参加して集出荷場GAP点検を実施しました。

管内2カ所の集出荷場でチェックシートに基づいて、集出荷場担当者に取り組み状況を確認しました。概ね基準どおりに実施できていましたが、「予冷庫の庫内温度を記録する」、「調整場のゴミ箱に飲食物のゴミがある」などの改善事項も見つかりました。集出荷場担当者は「この取り組みにより集出荷場が年々よくなっている」と話していました。

今後も普及所は、消費者により安全で安心な農産物を届けられるよう支援していきます。

## 全筆合格を目指して！～水稻採種ほ場審査～



採種ほ場をくまなく確認

9月4日と9日、普及所は田井採種組合15戸と相川採種組合12戸の採種ほ場について、県職員、JA高知県の24名がほ場審査を実施しました。審査では、異品種・変種の混入、病虫害の発生程度、倒伏度合いを確認し、必要に応じて稲株の抜き取り等の指導を行いました。

生産者からは、「7月の長雨の影響が心配されたが、順調に生育して安心した」「無事ほ場審査に合格したので、次は適期収穫できるように準備を進めていく」と発言がありました。

今後も普及所は、巡回指導等を通じて優良種子の生産に向けて支援していきます。

## 「土佐酒造酒米生産者組合」現地検討会を開催 ～‘吟の夢’の収穫時期を検討～



収穫時期を真剣に見定める参加者

9月4日、14日、本山町、土佐町で特別栽培‘吟の夢’の現地検討会が開催され、生産者、土佐酒造、土佐町役場、普及所の19名が参加しました。

普及所から、トビイロウンカへの注意喚起を促し、収穫・乾燥作業におけるポイントを説明しました。その後、参加者の全ほ場を巡回し、籾の黄熟度を確認しながら収穫時期を協議しました。

生産者からは「本年は出穂後の天候が良く、籾が順調に充実しており、良い品質が期待出来る」と声が聞かれました。

普及所はこれからも、酒造会社から求められる良質な酒米生産に向けて、支援していきます。

## 加工用柚子の出荷時期等の検討 JA高知県無農薬柚子部会役員会開催



今年の出荷スケジュール等を検討している役員・関係者

9月9日、大豊町でJA高知県無農薬柚子部会役員会が開催され、生産者6名、JA、普及所が参加しました。

JAからは、コロナ禍による加工品販売の状況、普及所からは各支援策等について情報提供しました。また、搾汁用柚子の出荷時期や、今年から新たに取り組む加工向け青玉の取扱いについて協議しました。

取引数量が少ない青玉出荷については、生産者を限定して取り組むこととなり、普及所から着果負担の軽減と所得確保を目的に、結果樹齢に達した新植者を対象にするようアドバイスしました。委員からは「若木は品質もよい」との発言があり、出荷候補者を検討しました。

## 花きの土づくりに向けて ～緑肥研修会～



品質向上に向けての研修会

9月11日、JA高知県れいほく ConfidenceFlower は JA で緑肥研修会を開催し、生産者3人が参加しました。

JA から塩類集積等が進んでおり、土づくりが重要であること、雪印種苗からソルゴーやからし菜等緑肥を用いた土づくりの方法について説明がありました。

普及所は緑肥を用いた具体例や、土壌分析結果について説明しました。

生産者からは、は種はどのタイミングでするのか等の質問があり、試験的には種をして取り組みたいとの意見がありました。

今後も普及所は花きの品質向上のため、土づくりを推進していきます。

## 高品質なピーマンを目指して ～カラーピーマン現地検討会～



根の環境を整える効果を学ぶ

9月16日、JA高知県れいほくカラーピーマン部会の現地検討会が開催され、13名の農家が収穫終盤の管理や市場事故防止のための対策などを学びました。普及所からは土壌の塩類集積について説明し、次作に向けた対策を紹介しました。また、メーカーから根を保護する微生物資材が紹介されました。農家からは尻腐れ対策や微生物資材などの質問があり、土壌と根の環境について関心が高まりました。

今後も普及所は、カラーピーマンの安定生産を支援していきます。